

平成29年度 第1回大和市総合計画審議会 会議録

- 1 日 時 平成29年5月11日（木） 10時00分～11時30分
- 2 場 所 保健福祉センター5階 501会議室
- 3 出席者 委員11名
井川、池田、宇佐美、小川、川渕、小須田、春原、田中(孝)、田中(寛)、
中林、長谷川 （委員、敬称略）
（欠席2名）
- 4 傍聴人 なし
- 5 次 第
1 開会
2 議題
（1）平成29年度の取組について（施策評価）
（2）市民意識調査結果の報告について
- 3 その他
- 6 会議資料
- | | |
|-------|---------------------------------------|
| 資料 1 | : 平成29年度の取組について |
| 資料 2 | : 総合計画審議会における進行管理・施策評価の実施状況 |
| 資料 3 | : 平成29年度施策（二次）評価シート（案） |
| 資料4－1 | : 「めざす成果」施策評価シート（案） |
| 資料4－2 | : 第8次大和市総合計画「成果を計る主な指標」の推移 |
| 資料 5 | : 平成28年度 第8次大和市総合計画に関する市民意識調査集計結果（概要） |

【議 事】

- 会長 : 議題（1）平成29年度の取組について、事務局に説明を求める。
- 事務局 : **【資料1、資料2、資料3、資料4－1、資料4－2について説明】**
- 会長 : 事務局の説明について、質問等はあるか。
- 会長 : 平成31年度から新しい総合計画がスタートすることになると思うが、審議会では今年度の後半から来年度にかけて次期総合計画策定に向けた検討を行うのか。
- 事務局 : 次期計画に関しては、現在庁内調整を進めているところで、7月頃までには、大きな方向性が整理できるものと考えており、次回の審議会において具体的に示す予定。施策評価については、現在の第8次総合計画の総括として、成果等を把握し、次期計画に反映していくためにも不可欠なものと考えている。
- 会長 : 今回の施策評価は全体的な総括とのことだが、これまでと同様、全ての施策を対象に評価を行うのか。
- 事務局 : 庁内の一次評価では、これまでと同様、めざす成果ごとに評価を行うが、総計審ではこれまでの進行管理や評価において提言していただいたものを中心に、個別目標ごとにご審議いただきたい。
- 会長 : これまで3期にわたって総計審が評価してきた内容を中心に、全体的な施

- 策評価を行い、その後に次期計画に関する審議を行うということか。
- 事務局 : そのとおりである。
- 会長 : 他に意見がないようなので、議題（２）市民意識調査結果の報告について、事務局に説明を求める。
- 事務局 : **【資料５について説明】**
- 会長 : 事務局の説明について、質問等はあるか。
- 委員 : 有効回収率について、前回の回収率はどうか。また、回収率向上のためにどのようなことを行っているか。
- 事務局 : 前回の回収率は 46.68%であり、今回も含め、他自治体と比較しても高い回収率だと考えている。調査の締め切り前に、あらためて回答のお願いを送付していることが、回収率の向上につながる一因と捉えている。
- 委員 : 施策評価にあたっては、資料の 14 ページのうち、重要性が高く、満足度が低い項目に注目する必要がある。また、前回と今回の内容を比べ、矢印の方向や長さも重要だと考える。
- 例えば、５番の「こどもを産み育てやすい環境づくりに関すること」については、26・27 ページのこどもに関する項目の結果も見てみると、相談できる場があるし、経済的な不安もないことで、総じて子育て世代の満足度が上がっているが、4 ページの「居住年数×こどもの有無」を見ると、小学生以上の子を持つ世帯の居住年数は比較的短く、つまりは定住志向につながってはいない、とも言える。この内容を検討するにあたり、確認したいのだが、5 ページ（５）の右側のコメントに、前回と比べ子育て世帯が増えているとあるが、この調査をもって大和市の子育て世帯が増えていると言えるのか。
- 事務局 : 調査に回答した子育て家庭が増えているという意味で記載してある。
- 会長 : 調査票の 6 ページ、F5 家族構成の 3、4 に○をつけた人が、こどもがいる家庭になる。こどもが成人・結婚等で家を出て、親のみで住んでいる場合、こどもは「いない」を選択しているが、実子がいる場合も多いと考えられ、それが高齢者の定住性の高さに繋がっているのではないかと理解している。
- 委員 : 大和市では、こどもが独立した場合、市内に住むことが多いか。
- 事務局 : 大和市の転出入の傾向を見ると、10 歳代後半から 20 歳代の転入が多く、30 歳代は転出超過の状況。結婚してこどもができたことで、周辺市に転出している状況はあると考えている。
- 会長 : 5 ページ（４）家族構成で、「親と子」と「3 世代以上」を足すと 58%程度だが、（５）こどもの有無では、「いない」が 60%となっていて、整合しないが、その理由は何か。
- 事務局 : この設問における「こども」は、18 歳未満としており、18 歳以上のこどもと同居している場合には、「いない」に分類されている。
- 委員 : 回収率向上のためには、調査結果をどのように公開するかが重要であり、また、回答者ヘインセンティブを付けると効果的だと考えるがどうか。また、他市でも同様の調査を行っていると考えられるため、比較を行ってはどうか。

- 事務局 : 公開の手法について、ホームページで公開するだけでなく、庁内に周知し施策等へ反映させていくとともに、審議会で見いただくことで、次期計画策定への参考となると考えている。他の公開方法は今後の課題と捉えている。インセンティブについては、効果はあるかもしれないが、現在市民のご協力によって一定の回収率を確保できているため、導入は考えていない。他市との比較については、内容が違うため難しい面もある。第8次総合計画に係る最初の調査からの経過もあって、質問の変更は難しいが、今後は国が行う調査等と質問内容を合わせるなど、比較できるようにしていくことも検討していく。
- 委員 : インセンティブについては、謝品のやり取りなどのために個人情報記載が必要であることから、最近では好まれない傾向がある。他市の事例でも、あまり効果が見られていない。調査結果の比較については、質問が異なるため正確には行えないが、定住意向などは周辺の市区町村でも同様の内容を実施しているので、比較してみてもよいのではないかと。
- 委員 : 自分自身、このようなアンケートに回答したが、面倒に思う人もいる。端的に、テーマに分けて実施するのもよいのではないかと。
- 委員 : 個人情報について、敏感になりすぎている気がする。
- 委員 : 10歳代のように、母数が100人に満たない部分について抽出し、考察しても正確な結果が得られるとはいえない。10歳代と20歳代を合わせて若年層とし、中年層、高齢層と分けることで、傾向が見やすくなるかもしれない。
- 会長 : 同じ10歳代でも、学生と社会人で差が出ると思う。参考程度にするのが良いのではないかと。
- 事務局 : 今回の調査では10歳代、20歳代の回収率が低いが、市政運営を進めるにあたって、次代を担う若い人の声は大切であると考えており、市民討議会では市内の高校に通う生徒にも参加してもらい、意見をいただくようにしている。
- 会長 : 今年度の後半、次期総合計画の策定に向けて取り組んでいくことになるが、参考にするために、この集計の分析をさらに進めてほしい。
高齢の方の回収率が高いとのことだが、大和市全体の年齢別構成に応じた補正を行うなど、切り口を変えた分析も検討してはどうか。また、買い物のしやすさなど、高齢者や子育て世代別にみていくことが求められるものについては、年齢別の調査結果の掲載を検討してほしい。
- 委員 : 42ページ以降について色の濃淡をつける場合、全体と比較して何ポイント以上違うか、等の視点で色付けすると、より傾向が見やすくなる。
- 委員 : 成果を計る指標について、低減傾向にある施策や、目標値との乖離が大きい施策は細かい検証が必要であり、地域別・年齢別に見ていくことで、次期総合計画に活かせると思う。
- 会長 : 健康な人ほど調査に協力的になる傾向なども考えられるので、健康に関する設問などについては、そうした要素を意識することも大事である。また、今回の調査だけでなく、各種個別計画策定時に行っている調査などについても、次期計画策定には参考にしていく必要がある。

- 委員 : 今回の調査期間に文化創造拠点シリウスが完成し、芸術部門の調査結果にも期待感が含まれていると考えられる。シリウスに関する利用者の声などは部会等の際に提供いただけるのか。
- 事務局 : 指定管理者に確認する。
- 会長 : この調査結果について、調査時期の情勢等による影響も大きいと考えられる。今年度の審議会では、前半は、事務局からの評価資料を参考に、これまでの施策評価の進行管理を総括的に行い、後半は次期総合計画についての検討を行っていく。本日の2つの議題についての議論は、以上とさせていただきます。
-

以 上